



# 茨木美術 ArtWave now

茨木美術協会  
2016年6月31日発行

## アートの扉

会長の言葉  
木村 光佑 2

おびにおん・提言  
opinion 3

ボランティアアート  
4

第59回  
茨木市写真展  
第27回  
さくら祭り写真展  
5~6

十人十色 7~15

日本画の仲間展  
16~17

茨木美術研究会  
18

訃報  
辻本周右氏 19

information 20

表紙作品  
「ステーション」

写真部門  
井出 真





茨木美術協会  
会長 木村 光佑

# 1

第59回茨木市写真展の表彰式が、5月に行われた。展覧会を鑑賞した後、式典で祝辞を述べた。

写真と言うのは、何かを表現する芸術の中では、もっとも簡単に創作できると考えられる。しかし、簡単であるが故に、かえって難しいといえるのではないか。このことは、写真家である皆さんがよく知っていることだと思う。

どうすれば、他の人と違った個性的な写真が撮れるのか。悩むからこそ人は色々なことを考え、そして、その考えが深まっていくのではないか。

写真はシャッターを押せば写る。デジカメなら画像は、その場で見ることも可能だ。初心者でも、きれいに撮れる。桜並木は満開だ。花が散る場に出会うこともある。

その景色を撮るだけで、ちょっとした自慢のできる写真に仕上がる。しかし、写真展に出品して入選したり、入賞するとは限らない。

では、何をどう取れば良い写真、人を感動させる写真が撮れるのか。

私は、大学で日本画を勉強し、その時学んだ基礎的な知識を生かして、版画や壁画・モニュメントなどを制作する作家である。

芸術と科学の融合をテーマに、教育と研究を進めたりもしているが、時にはスポーツや俳句・和歌にも興味を持つ。

花吹雪 切株のひび 覆いけり 花ビラの一片が、切株のひびに張り付いているのを詠んだ句である。

これは絵になり、写真になると感心した。作者の感性が、そこに表現されている。

では、「感性を磨く」には、どうすればいいのか。

「日常生活の中に」ヒントがあると思う。

「相手の立場で」ものを考える。

見えない所にこそ真実があり、ものの向こう側には何かあるのかを、見つけることこそが芸術を志すなら、大切なことだと考える。

感性を豊かにすることが、更なる、すばらしい創作に結びつくのではと話したのだが、このところ、ちょっとと感受性の劣ってきた自分に言い聞かせているようで、いい反省材料にもなった。

# 2



熊本讃歌・木村 光佑 (版画)

昨年、ある企業の熊本支社新築に際し、私は、そのプロジェクトに参加した。この企業は、各地に支社を持っていて、その地の特徴を建物に取り入れることを、コンセプトにしている。

熊本は、加藤清正の兜を模したランドマークを建て、建物の入り口に壁画を制作することになった。

壁画「熊本讃歌」は、城の石垣を背景に描いて熊本城を中心に、阿蘇や通潤橋など、熊本にまつわる事物をカラーージュして、熊本の良いところをアピールした。

落ち着いた雰囲気のある熊本城を、何日もかかってスケッチしたことを覚えている。

今年4月、熊本地震が起こった。

この地の文化遺産のシンボルとも言える熊本城は、崩落の惨状を見せつけた。熊本の他の文化遺産の復興も含め、茨木美術協会でも、美術協会らしい支援ができないか検討していただきたい。

私は、早速に壁画「熊本讃歌」の原画を版画の技法で制作し、それを実費で販売し、支援の資金にしたいと思っている。

会員の有志の方々にも、作品を実費提供をお願いし、販売の機会を得て、茨木美術協会としての支援を考えている。意見をお伺いしたいと思う。

## —茨木美術から Art Wave now へと舵を切りました—

56号の冒頭で木村会長は「芸術を誰もが楽しめるものに」という言葉を寄せられました。以後、組織の見直しや各部の在り方も常任理事会や、理事会を経ながら変革してきました。誌面の変革をカラー化や、A4化をしながら進めて来ました。会長の言葉が反映されているのかを考えるに、まだまだ不十分だと思うのです。この57号から思い切って刷新を図ろうと誌名も従来の「茨木美術」から「Art Wave now」へと舵を切ろうと…。記録として残す事も勿論必要だとは思っていますが、それ以上に変革の時代に添いながら、常に未来志向で美術協会として、発信し続けることを念頭に取組んで行きたいと思うからです。市民目線に立った時に、美術協会が目指すべきものが見えて来ないのは致命的な欠陥と、危惧したからなのです。まだまだ未熟でこの後、会員の皆さんのご理解やご支援を戴きながら共に歩んで行けたらと思っています。変革を進めながら未来の美術協会を目指して…。

広報部一同の願いでもあります。

## ■おびにおん・提言■

4月14日、未曾有の熊本地震が発生しました。発生後1ヶ月以上過ぎて、余震はまだまだ続いて1500回以上になってしまった。

遠く離れた、この茨木で私たちは報道を通じてしか目に見えない現状の中で、私たち茨木美術協会の会員として、支援の在り方を考えなければならないのではと…。

義援金活動も一つの方法ではあるけれども、アーティストとしての対応のしかたが他にあるのではないかと…。私たちは日々、作品の創造のために活動を行っています。その活動は、ともすれば自分勝手な都合で行っているのではないかと感じてしまいます。この大規模な震災や災害が起る度に頭の中を駆け巡ります。

2011年3月の東北大地震の後、6月に展示会を開催しました。発生後から開催までの2ヶ月、やるべきなのか？止めるのか？結局は今迄、やってきた活動はこの場に及んで、止めるべきものでも無くむしろ積極的にやらなければならないと思直し、実行しました。

今回の「自然×人=美」のフォーラムも熊本地震の後を受けてやることにしました。やらなければならない使命感が私を突き動かしています。この10年来の活動の延長線上に、今回のフォーラムがあるのだと考えています。



フォーラム「自然×人=美」・52枚のパネル+実物展示  
地域の思い、私の思いを伝えることを目的としたフォーラム

現在の私達を取り巻く社会環境は、連日メディアで流されていますが「自然×人=美」に繋がるようなものは何一つ無い悲しむべき現実です。

この悲しむべき現実に向って私たち茨木美術協会は立ち向かい方を考えなければ存在価値は無いのではないかと危惧しています。会員の皆さんがこの想いを共有して下されば美術協会の改革は加速するものだと信じています。

そこで、当面、この熊本地震を受けて茨木美術協会の活動を考えてみたいのです。毎年、繰り返される会員の皆さんに出展いただき開催しています「茨木市美術企画展」とは別に年間を通じてリレーしながら、心を繋いで行くような展示会が必要なのでは無いでしょうか？

荒んだ心を和らげることで果たせる貢献も、あるような気がします。勿論、この展示会を通じての利益は被災地に届けられるようにしなければなりません。一過性に終わるものでも無く、継続した活動が期待されているのだと思います。

このフォーラムの中で2時間のクロストークの場を持ちました。里山で生まれ育った住人。この古民家再生に携わった工務店、大工の棟梁、茅葺き職人、そしてオーナー、奈良県の職員、大学の先生、そして私。規模は小さなトークでしたが静かに、熱く小さな里山の将来を語るきっかけが出来たと思っています。このチームは無くしたく無い！

事あるごとに集まって継続して、このグループを存続させて、このグループでの新たな取組のフォーラムを実現させたいと思っています。これが終わりでも無く、スタートなのだと考え新たな積み重ねを続けて行きたいと思っています。新たなプロジェクトのスタートと、捉えています。



フォーラム「自然×人=美」・クロストークの場・異分野トーク  
話し合いは始まりの第一歩、創作の第一歩。

写真撮影：写真部 / 中濱 正善

これなんです！。この活動を茨木美術協会の中でやるべきだろうと…。

幸いなことに茨木美術協会は書・日本画・洋画・版画・彫刻・工芸美術・写真・デザインの多岐に渡る表現と創作が可能で、市民の暮らしの中における芸術の役割を考えた時に市民に寄り添うものになればと…。

新たな芸術波動「Art Wave」が、いよいよ必要とされているのだと実感しています。様々なシーンに寄り添うかたちでプロジェクトが進行できればと願っています。

ただ作品を展示し、見ていただくということでは無く、様々なワークショップや体験の場も必要となるのでは無いかと考えています。その時々に応じた多様な展開が美術を通じて暮らしの中に浸透して行けるようになればと思います。

早急にプロジェクト **Heart Art Project** を立ち上げ準備に掛かろうと思います。茨木美術協会だけの活動では無く広く、茨木市、市民活動センター、観光協会、一般まで含んだ新たな枠組みで、美術協会が中心になって動くことだろうと思う。ボーダレスなプロジェクトで幅広く社会貢献活動に取組み、市民との活動をタッグを組んで活動の領域を広げて「美の真実」「芸術の真なるもの」を見極める活動で、美術協会の核づくりを推進したいものです。

批判より先に地域と共に「動く」美術協会を目指したい！

北井 勲 (デザイン)

この号より新たに、「おびにおん opinion」のページを設けました。美術協会のあるべき姿を求めて、より多くの会員の提言を募ります。

ご寄稿どうか宜しくお願いいたします。

1  
2015.  
10/8(日)

茨木市市民活動センター事業

講座

ご持参のスマートフォンで

写真の上手な撮り方

ご持参のデジカメで

20名募集!

Before

とっておきの撮影術、教えます!  
いつもの撮影方法にほんの少し手を加えるだけ!  
コツさえつかれば、いつもの写真が驚くほどレベルアップします。  
ただの記録から一歩前進して「絵になる写真」を撮影してみませんか?

● 10/18(日) 費用:500円

● 13時~15時30分

● 市民活動センター (市民会館2階)

● 講師:茨木美術協会 梶原 雅彦さん

After

★申し込み・お問い合わせ先 要予約

茨木市市民活動センター (市民会館2階)  
〒565-0880 茨木市駅前西4丁目6-10  
☎ 623-8820 (9時30分~18時まで)  
休所日:月曜日・祝日

※茨木市市民活動センターは、NPO法人 いばらき市民活動推進ネットが茨木市から指定管理者として指定を受け、管理・運営を行っています。

今年、茨木美術協会の新しい改革の一部として、ボランティア企画委員会が新設され、委員長に拝命されました。茨木市市民活動センターとの連携と協働により、美術協会としてふさわしいものを企画立案し、講座等を積極的に開催していくのが目的です。

幸いにも茨木美術協会には、八部門の貴重な財産がありますので、それを地域の市民の方々に還元して、文化芸術の向上と発展のために若い方、高齢者の方たちに対して私たちができる限りのボランティア活動を行い、将来の茨木市美術展の向上と発展に寄与したいと思っています。皆様のできる範囲で結構ですので、市民目線に沿った優しく楽しい講座の提案を、お気軽にご相談いたします。

ボランティア企画委員会 委員長 鳥居 史郎



第二回 上手な写真の撮り方講座・写真撮影:写真部/中濱 正善

第三回目を現在、市民活動センターと、デザイン部の谷 明子さんに検討をして戴いています。

2時間と言う制約の中「何が出来るか?」「どんな楽しいことが出来るか?」を谷さんのご近所のおばさんとのコミュニケーションを重ねながら検討を戴いています。勿論、市民活動センターとの綿密な打合せもやりながらです。準備に多少時間がかかりますので開催日時は9月17日(土)となります。ちなみに「苺」を題材にしたものだそうです。

2  
2016.  
5/29(日)

茨木市市民活動センター事業

講座

ご持参のスマートフォンで

上手な写真の撮り方

ご持参のデジカメで

平成28年

日時 5.29(日) 場所 市民活動センター会議室 (クリエイティブセンター2階)

13:30~15:30

講師 茨木美術協会 費用 500円 定員 20名  
梶原 雅彦さん

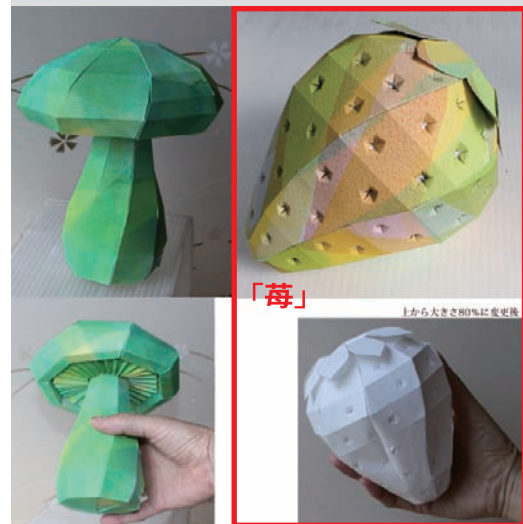
とっておきの撮影術、教えます!  
いつもの撮影方法にほんの少し手を加えるだけ!  
コツさえつかれば、いつもの写真が驚くほどレベルアップします。  
ただの記録から一歩前進して「絵になる写真」を撮影してみませんか?

★申し込み・お問い合わせ先 要予約

茨木市市民活動センター  
〒565-0888 茨木市駅前西4丁目6-10  
茨木市市民総合センター内

TEL/FAX: 072-623-8820  
休 所 日: 月曜日・祝日・年末年始  
開所時間: 9時30分~18時まで

※茨木市市民活動センターは、NPO法人 いばらき市民活動推進ネットが茨木市から指定管理者として指定を受け、管理・運営を行っています。



次回の検討:ペーパークラフト「苺」の検討・きのこは難しい!

3  
2016.  
9/17(土)

# 第59回 茨木市写真展・第27回 茨木市民さくらまつり

## ■会期

5月18日(水)～22日(日)

午前10時～午後5時(最終日は午後3時30分まで)

## ■会場

茨木市福祉文化会館 302・303号室

■主催：茨木市写真展実行委員会(茨木市・茨木美術協会)  
茨木市民さくらまつり実行委員会

## ●入賞作品展

5月26日(木)～31日(火)

午前10時～午後7時(最終日は午後5時まで)

茨木市立ギャラリー(阪急茨木市駅2階口サヴィア内)

茨木市民会館閉館にともない今回から会場がドリームホールから隣の茨木市福祉文化会館に変更になりました。

前回よりも広い会場になり、皆さんにゆつくりと作品を鑑賞していただける、よりよい環境になりました。

また、今までで初めての地元テレビ局の取材・撮影があり茨木市写真展の会場風景が放映されました。

表彰式終了後、展示会場で審査員全員が個別対応で講評会を実施し、作品づくりのレベルアップになると出品者の方に大いに喜んでいただきました。

茨木市写真展審査主任 鳥居史郎

## ■「茨木市写真展」出品点数

審査員6点

招待14点

無鑑査19点

公募114点

## ■「茨木市写真展」上位入賞作品

市長賞・金賞「Afternoon」奥野 英一

銀賞「孤独」中川 展一

銅賞「薫風になびく」井上 一男

## ■「茨木市民さくらまつり写真展」

出品28点

## ■「茨木市民さくらまつり写真展」上位入賞作品

さくらまつり実行委員長賞「愛情満開」中村 政光

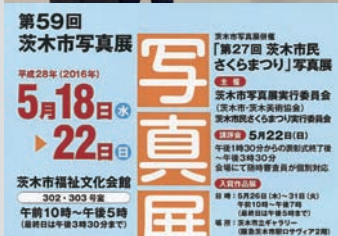
さくら賞一席「花見デビュー」大森 重徳

さくら賞二席「御手前を観察する少女」大塚 敏治

さくら賞三席「野点日和」井上 一男



地元テレビ局の取材を受ける  
鳥居審査主任



会場風景・茨木市福祉文化会館 302・303号室



茨木市立ギャラリー(阪急茨木市駅2階口サヴィア)における展示会会場風景

第 59 回 茨木市写真展・第 27 回 茨木市民さくらまつり写真展



市長賞・金賞「Afternoon」奥野 英一



銀賞「孤独」中川 展一



さくらまつり実行委員長賞「愛情満開」中村 政光



銅賞「薫風になびく」井上 一男



さくら賞一席「花見デビュー」大森 重徳



さくら賞三席「野点日和」井上 一男



さくら賞二席「御手前を観察する少女」大塚 敏治

写真撮影：写真部 / 上田 勉・上西 守

● 藤川 耕太郎 (洋画)

一私の大連紀行一



大黒山⇒大黒山

中国、遼寧省の港町『大連』は日本人にとって広い中国の中で最も馴染の深い都市のひとつでしょう。また、大連は親日的な都市で、東北地方からの豊富な人材が確保できることから、日本の企業も600社ほど進出しており、治安も比較的良好と思います。私の勤務先の工場が開発区に所在するため、延べ60回以上も訪問、何時も業務優先の慌ただしい訪連となり、じっくりと街中を見る機会は多くありませんが、旧市内は戦前の味わい深い建築物が今も沢山残っています。

幾つかを紹介すると、旧大和旅館は現在市立のホテルとなっていますが、中山広場に面している大理石作りの建造物で、ラストエンペラーの主人公となった、愛新覚羅溥儀が囚われていた部屋も保存され一般人も見ることができます。その対面には旧横浜銀行、近くにロシア統治時代の建造物群も有り、異国の雰囲気を感じることができます。

中山広場の南には、旧大連港が有り、戦後の引上げ船が出た棧橋もそのまま、数年前までは港湾ビルの屋上から展望できましたが、今は中国初の空母の基地港となったため、立ち入りが禁止されているようです。また、現在の大連市役所は嘗ての関東軍司令部、大連駅は旧満州鉄道の始発駅で駅舎は上野駅と同じモデルとなっています。更に西に50kmほど行くと、旅順港展望台や103高地等日露戦争当時の遺構が有り、展示館には東郷提督や乃大将の写真、戦争の遺品等が展示され、多くの観光客が訪れています。

今年の2月、3泊4日の短い訪連でしたが、滞在最終日が土曜日で午後2時まで時間が空き、天候も快晴だったため、以前から行ってみたかった工場北側に聳える大黒山(標高660mの岩山で殆ど樹木は生えていない)の北側にスケッチに行こうと思い立ち、会社の車をホテルに回してもらおうよう交渉、ドライバーの孫さんは休日でも無理をお願いしたにも拘らず快諾、私は無事後部座席に収まり8:30時にホテルを出発しました。

真っ直ぐ北に向かうと5分も走れば急峻な山道、左右を岩山に囲まれた狭い道をクネクネと30分ほど走ると峠の集落到着いた。古い寺院の藁が面白く早速スケッチを始めてみたが5分で体が芯まで冷えて、歯がガチガチと鳴り、手が思うように動かずギブアップ、スマホで気温を見るとマイナス12度、北西の風11mで体感気温はマイナス22度との事、ダウンジャケットに革靴のスタイルではとても耐えられませんでした。

同行した会社(会社)の副社長にホカロンを分けてもらい車の中で小休止、白酒(アルコール52度)を少々頂き、身体を

内外から温めて再挑戦。一枚目で寒さの洗礼を受けた後、峠を北に下ると大きなダム湖が見えてきました、湖面は真っ白に凍結しており、孫さんの話では氷の厚みは10cm以上有リスケートも可能との事でした。

ダム湖から東に数キロ移動したところで大黒山の北側が見える集落到着、少しイメージより山が遠くに見えましたが、黒い山肌とレンガ作りの建物と索漠とした風景が魅力的で、ここで腰を据えて3枚、更に東側に移動し1枚、時間が正午を回ったので引上げ、ホテルに12:30時に帰着、軽い食事を取って空港に向かいました。

今回は何の準備もせずに思い付きでのスケッチでしたが、短い時間作家気分を満喫、大自然の大きさと厳しさを再認識、次回は準備万端では是非にも再訪したいと心に誓い厳寒の大連を後にしました。

● 橋本 友男 (写真)

写真クラブ「ゆうゆう」ではクラブ展又、クラブの女性有志3人によるフジフォトサロンでの3人展に向け活動しています。

又、写真の力を借りて社会貢献的なものが出来ないか? 外人観光客の激増、地方創生法による政策援護で各自治体は新しい産業、物産、食品、観光資源の開発に躍起しています。

茨木市には北部の山麓や川沿いには季節毎に変わる素晴らしい風景や、歴史的にみて価値ある建造物や祭りなどのイベントがあります。

普段はなかなかみられないそんな姿を、少しでも多く市民の皆さんに見せられたら良いな〜と思い「素晴らしい茨木」のタイトルで来29年9月に写真展を企画してみました。

● 松本 富夫 (写真)

日々の移ろいの早さに驚いて居ります。さて私、元々はネイチャー大好き人間なのですが私の居ります全日写連は全んどがスナップ系でどうしても前へ前へと出てしまい又、寄せて撮って居ります。それが一歩山野へ出て風景を撮る時、知らず寄せて撮って居ります様でパソコンを見てガッカリ。何ときゅうくつな画像なんだろうと反省しきりの今頃です。

写真はアメンボーが水上に行く時に出来る足の文様が面白くて撮って見ました。

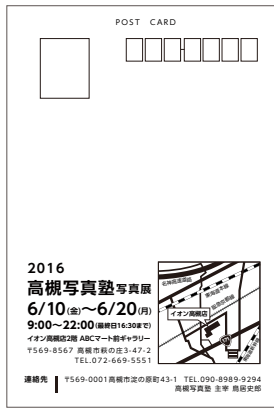


● 鳥居 史郎 (写 真)

従来から茨木市写真研究会、茨木美術研究会、茨木市葦原公民館写真講座で地域の文化芸術の向上と発展の一助のために活動してきました。

この度の茨木美術協会の新しい改革の方針に沿って、自分なりに、自分の住んでいる地域の自治会のシニアクラブ写真部の指導、また、新しく、高槻写真塾の創設といった新しい活動に挑戦し、皆様のお役に立ち地域の文化芸術のレベルアップの一助になればと思い自分のできる範囲で頑張っています。

幸いにも地元地域の京都信用金庫から店内での写真展開催の要望があり、また、イオン高槻店からも写真展開催の依頼がありました。最近、新しくブログを始めましたので、ネット上で多くの方に写真を通して色んなことを発信していこうと思っていますので、皆様のご支援ご鞭撻をよろしく願います。



● 宮田 なつ子 (デザイン)

はじめまして。本年から会員としてお世話になります。お仕事では印刷物をデザインしたり、ホームページを作ったりイラストを描いたりコピーを書いたり写真を撮ったりと、なんでも屋さんを生業としています。先日訪問した印刷所に、年季の入った活版印刷機がありました。印刷用のデータを作らなくても、活字を組むだけで手早く使えるので、名刺やハガキ作りでは今でも現役で活躍しているそうです。

パソコン上で使う書体の見本帳をお見せすると、活版印刷機の活字を作っているメーカーと同じ会社で、しかも活字と全く同じ書体もラインアップされていると教えていただきました。

100年以上前から使われている書体が、最新のデジタル環境でも脈々と受け継がれている。

美しいデザインにはある種の「しぶとさ」が宿るのかもしれない。

CHICKEN



YAKUZEN



niwatori

● 花岡 憲三 (工芸美術)

福岡新市長が公約で「市民に愛され、使われる新しい芸術文化施設の建設」(2016年5/8朝日)を言っておられました。

私たち市民にとって大変喜ばしいことと思いましたが、問題はハード面だけではなく、それらの施設をだれもが自由に活用し開かれた物でなくてはなりません。

茨木美術協会としても知恵をだしみんなが「文化芸術」に参画し美を実感することが大切なことだと思いました。

● 上田 勉 (写 真)

一ベトナム縦断紀行一

ベトナムの隠れた魅力に出会う旅に出かけました。関空から5時間30分程で「南部」ホーチミンへ到着、かつて「東洋のプチパリ」と称されたコロニアル様式の美しい街並みと、多くのバイクが行き交う最大の商業都市。「中部」では旧市街地は世界遺産に登録されるグエン朝王宮を中心に寺院や博物館などが集中している。世界遺産に指定されているホイアン、最盛期には1000人以上もの日本人が住んでいたともいわれている。

そして「北部」首都ハノイは美しい湖と緑豊かな自然に囲まれた政治、経済が中心地。エメラルドグリーン美しい水面に水墨画の風景のような切り立った奇岩がそびえ立つ景勝地。

世界遺産ハロン湾ではクルーズ観光を楽しみました。発展の途中にあるベトナム紀行でした。これからも世界遺産に触れる旅が続けられるよう健康に留意したいと思います。



「南部」  
ホーチミン・商業都市



「中部」  
ホイアン・来遠橋  
(日本橋)



「北部」  
ハノイ・ハロン湾



●松葉 蘇山（日本画）

4月14日、未曾有の熊本地震報道に啞然となった。熊本城の石垣は至る所で大きく崩壊、天守閣の姿は見る影も無い。

一般の生活は完全にストップ、そうして5月14日午前10時現在で震度1~3が1326回、4以上106回の計1432回、活動は今なお活発で、安心出来ない状況である。

子供、高齢者は疲労も限界、又、衛生、健康問題その他山積、何時、何処で発生しても不思議ではない日本。

一日も早い復興を願い、募金その他で、今、自分に出来る事から協力させていただきます。

●田口 正子（版画）

版画をしていて私はいつも常識に捕われない魂の解き放ちがほしいと思う。美術はいつの時代も自由であったと思う。その自由であった芸術が今、より自由、捕われのない感覚が求められている様に思う。絵でも版画でも、絶対非演出の写真と違う所は、自由なる演出ができることである。だから、この木をこちらに移せばよりよいものができるならば移すことができる。

小さい物を大きくもできる。それが作品にとってよりよければである。作品がよくなる為には何に挑戦しても良いのではないかと思う。私はいつも窮屈に捕われている自分を感じている。

魂の解き放ちは、私の永遠のテーマである。

●稲垣 直樹（洋画）

◎5月15日~23日=フランス・プロヴァンス地方スケッチ旅行

◎6月14日~19日=関西二紀展（大阪市立美術館）

◎10月12日~24日=二紀展（東京・国立新美術館）

◎11月2日~11日=個展（大阪・アートデアートビュー）

◎11月15日~20日=二紀展京都巡回展（京都市立美術館）

◎写真は近作「星の教会」シリーズ・3号の小品です。



●森下 洋子（写真）

足も肩も、ほぼ完治、今年は写真撮りに行けそうです。2年ほど、ぐずぐずしてましたので、これから頑張ります。

ご指導よろしく申し上げます。

●早田 恵子（洋画）

今年1月に2度目の個展を開きました。自分の作風の抽象とちょっと変化させた具象を展示してみました。個々の方々の反応はお話していて楽しかったです。

今年からの目標に絵画の人口の裾野を広げる事に努力していきたいと思っています。これから先の人生を『自分で出来るだけ楽しく暮らす』という事に、絵を通して、ほんの少し、お力添えが出来たらいいなと思っています。茨木美術協会も、刺激のある楽しい会であって欲しいと願っています。



●杉野 立一（版画）

改革は、しんちょうにおちついて、どうしてもあれもこれもとなりがちです。そして時間と労力がかかります。動きはじめても、しばらくは目をはなせません。時代は動き、どんどん進みます。美術協会のための改革、ここがいちばん大事と私は考えます。

情報はあふれ、世界は動き、技術は先へと進み、おいかけることが必要かどうか。個人によって必要なことはちがうはずですが。いままで以上に芸術にかかわらず個性が大切な時代だと思えます。もっとシステム化された1極の時代が来ると予測します。両方同時に学んでいけないといけないように思えます。

●高田 真佐子（版画）

昨年のごとだが、「S市展はレベルが高そうなので、挑戦してみるつもり。」と知人が言った。その後のことは聞いていないが個々のコミュニティが主催する公募展にもランクがあるとは知らなかった。私は向上心も競争心も希薄なので、そんな面倒なことは考えたこともない。むしろ、自由出品、無審査の公募展がいいな、と思っている。少なくとも、会の趣旨にそぐわないと審査員が判断した作品は御遠慮いただく、などと、ワケのわからない言葉で、表現者の自主規制を求めるようなことは、あってはならないと思っている。とんでもない時代がきているからこそ、そう思う。

● 近藤 幸恵 (デザイン)

昨年より、木の実やドライフラワーを使った作品づくりをしています。子供の頃から、葉っぱやどんぐりが好きでしたが、改めて様々な形や色、それぞれが持つ役割を知るとその面白さに感心します。乾燥させた花や葉、茎の形は出来あがってみないと分かりませんが、繊細で柔らかなフォルムは乾燥させたものならではの魅力かなと思います。自然や芸術など美しいものを感じ大切に作る気持を育てる事は大事だと思います。

美術協会員がワークショップを開いたり、ギャラリーだけでなく提供してもらえる場所に作品を展示したり、市内の催しのデザインを考えたり、それぞれの得意な分野でかかわり、市民の目に触れる機会が増えていくようにすることが、芸術に興味を持ってもらうきっかけになり、また美術協会の発展につながっていくのではと思います。



● 高橋 一秀 (写真)

貴方の趣味はと尋ねられると、即座に「音楽」と「写真」と答える。ところが、音楽の方はもっぱら鑑賞ばかりで、楽器も弾けず、コンサートに出かけたりCDを聴いたり、ひたすら受け身の世界である。一方、写真は、優れた作品を鑑賞しつつ、自らが撮影し一つの作品に仕上げるというクリエイティブな世界がメインとなる。はるかに音楽との付き合いのほうが長い、自らが創り出せるという点での写真の魅力には勝つ事ができない。しかしながら、私にとってこの二つの趣味は共に欠くことのできない人生の良き伴侶である。音楽的な感性や視点が、写真という作品づくりのうえで、少しでもプラスになってくれればと願いつつ、愛用のカメラを片手に今日も街なかを彷徨っている。



● 辻田 牧子 (写真)

若輩者ですが、どうぞ宜しくお願いいたします。初めてのカメラは母から譲ってもらった古いカメラで、祖父が孫の写真を見たくて田んぼを売って購入した、キャノンの一眼レフでした。

何台かカメラは変わりましたが、学生時代からずっと、日々の生活を撮影しています。

田んぼがカメラに変わり、被写体は撮影者に変わりました。これから先も色んな変化があると思います。毎日とは同じではないから、私は写真を撮り続けたいと思います。

● 國司 瑳代子 (工芸美術)

我が小店「蘭布」は5月25日誕生日、今年で12年目となります。染の店として娘と2人で立ち上げましたが雑貨やCafe、講習会、部屋貸しと名前だけの多角経営、月末一週間の開店、他の時は教室やたのまれものの製作等をしています。

染めって何とよく聞かれます。私は主にローケツ染をしていますが他にしぼり染、ぼかし染、もやもや染、型染、手描き染等適材適所で染めています。又洋服の色変えや、しみが出来た時にも染めでカバーすることが出来ます。主は木綿、麻、レーヨン、シルク、毛等。今後のイベントとしては、プチフリーマーケット、春日小学校手作りまつり、ボーイスカウトTシャツ染等を予定しております。今からワクワクしています。

● 田中 千枝子 (工芸美術)

時間とエネルギーと、ちょっとした自分へのお金。創作活動を支える三つだと思ってきた私です。でも、それ以上に大切なことを忘れていたのです。体調を崩し、土と戯れることができなかったのは2ヶ月余り。わずかな期間だったのに、元気が戻って来ても、創作意欲が湧いてこないのです。“う～ん、エネルギー、エネルギー”と喚いたら、心の声が聞こえてきました。“ゆっくり ゆっくり かたつむりのごとく…” って。



「カラーを抱いて」

## ● 中濱 正善 (写 真)

美術協会が生まれ変わりつつ有る中、昨年の秋に「写真の上手な撮り方」を美術協会の写真講師の一員として、一般市民対象に実施しましたが、定員オーバーで参加出来ない人や、再度実施して欲しい等の強い要望が有り、活動センターからの依頼により5月に第2弾を実施する運びとなりました。

美術協会が外部との交流の小さな第一歩を踏み出したと言っても過言では無いと思っています。デザインや各部門のいろいろな問題が有るかも知れませんが、美術の面白さや楽しさを一般市民の皆さんと学べる、遊べる簡単な講座が何らかの方法で実施出来て行けば、協会の発展にも繋がり、部外へのアピールになって行く事と思います。

「茨木に美術協会有り」と呼ばれる様な生まれ変わる協会を少しでも、何らかのお手伝いが出来ればと思っております。

私事ですが、今年も福祉文化会館のギャラリーで、6年連続の写真展を9月に開催する予定です。



今回の副題は「美の国・沖縄」をテーマに考えています。

## ● 榎本 隆夫 (写 真)

この春にインターネットの通信環境を変えようと模索を始め、これまでの ADSL 12MB から遅まきながら光回線 1 GB へと考えました。最近はインターネット通信だけでなく携帯電話との提携や電気料金との提携など様々な組み合わせがあり、どこをどう組み合わせるのかあるいはどこに絞るのがかなり複雑で難解です。選択肢が増え消費者にとってはよいことですが、お客様の困りこみに各企業が取り組んでいますので消費者側も知恵や知識や勉強がますます必要であると実感した次第です。

技術や情報や社会的インフラがどんどん変化して行く中、芸術や美術はどう関係し拘わっていくのかを ちょっと考える昨今です。美術協会とはあまり関係のない閑話休題でお粗末でした。

## ● 山本 佐代子 (工芸美術)

今年から入会させていただきました。よろしくお願ひ致します。退職後に何かをしなくてはと生涯学習センターの、きらめき講座に通いはじめました。そこで初めて綴織に出会い、このような方法で絵を描けることを知りました。驚きと同時に面白く、あっという間に8年が過ぎ、9年目に入ります。ただ美術とは縁のない暮らしをしていましたので、これからちゃんとやっていけるのか不安ですが、同じ織りの仲間に美術協会から声をかけて頂いた人がいます。彼女たちが私に続いて入会してくれることを期待しています。

## ● 松谷 和子 (写 真)

美術協会に、入会させていただいてから、未だ日が浅く組織についても詳しく理解していませんが、若い方も沢山入られ、又その方達が、パソコン堪能なので、改革の息吹きを痛切に感じています。私はまだまだアナログ人間なので、インターネットをマスター出来ていません。パソコンを使いこなせなくてははいけませんね。

私事で申し訳ないのですが、昨年9月の眼を患い、写真はもう諦めなくては、いけないのかと思いましたが、手術は成功、年末頃から、ポチポチカメラを持って出かけられるようになりました。眼は大切に、気付かないうちに進行しますので、定期的な検査を、おすすめします。

## ● 福永 佳水 (書)

茨木美術協会では新しい活動がされていて楽しみです。市民活動センターでの講座も人気のようで前回は受講出来なかった写真講座に早々に申し込みました。

私的には所属会派を越えた書仲間と、京都文化博物館の1フロアーを借り切って、毎年5月に書展をしています。一人8メートル程の壁面を自由に使える個展の集合体のような作品展で、様々な活動をしている書家の方々との交流の場であり、多方面の来場者からの評価、感想が刺激のある勉強の機会になっています。様々な場所で、美術を通じて交流できる機会があるのは嬉しいです。

## ● 米田 瞳 (工芸美術)

新たに皆様の仲間入りさせて頂きました。宜しくお願いします。木の優しさを如何に表現するかを課題に日々格闘しています。作品作りのコンセプトとしては、 壮大すぎて未だ未熟ものですが何れにしても自然の樹木は力強く、優しさがあります。その素材に負けない強くて耐用年数が長く、優しさを表現できる作品を作っていきたいと考えています。 また昨今の情報ネット社会では、 ニーズが恐ろしく多様化し若者の組織離れが昨今顕著に進んでいる状況下で組織運営は著しく難しいものです。 改め組織運営の原点に帰すべき時期に来ているように思います。

## ● 白井田 喜久子 (書)

「日本の書道」ユネスコ無形文化遺産登録推進に活動されている事を知りました。スマートフォンや、パソコンの普及に共なって、書道や文字文化が、衰退するのではないかという意謝もあり、書道文化を後世に残さなければ… という思いとか。

印刷された年賀状が多くなった昨今、 ひと言、手書がそえられていると、嬉しいですね。字面を見ただけで、その人の様子が、「お元気そうだわ」とか「あらどうなさったのかしら」とか、手書の大切さが。 この度の「王羲之から空海へ」の特別展、王羲之、空海、最澄等々、これ程身近に感じられるなんて、ワクワクしながら、再々美術館に足運びました。

● 吉田 英三 (洋画)

あるがまま、生きて、山越え傘寿かな、気力や、感性がおとろえていくのに抗ってはいるのだが、年々越える山は、険しくなってきた。今の時代の中で、生きていくことのエネルギー、すばらしさみたいなものを、えがきたいと思っている。今を呼吸しながら、今の風を感じとり、イメージを広げながら創っていく。どこまで表現出来たか、見る人に、どう感じてもらったか、感想をかきかせてもらい、自分でも気付かなかった事を指摘されたり、時には真逆の反応もあったりして、お互いにイメージを刺激しあいながら話が進むのは楽しい。

● 中井 雅子 (日本画)

美術協会の改革の潮流についてとの事ですが、又 18 キップの旅の話で申し訳ありません。

今年 1 月末の厳寒に体調を崩し、2 月中は家で養生をし、3 月半ば雑誌に串本の堅野崎が良いと出たので、時刻表を調べる間も無く、翌日行きました。和歌山迄はスムーズに行けたのですが、それから乗り継ぎに時間がかかり、串本駅に午後 3 時頃着き、それから紀伊大島へ行くバスもすぐには無く、返りの電車のことを考えて、串本駅前から向いの島をながめました。

18 キップはスローな旅で、乗り継ぎの待ち時間に、その駅の近辺を見物するのもいいですが、今回は駅周辺にあまり見どころは無く、無計画に行った事を後悔した旅でした。

● 梶原 雅彦 (デザイン)

Change before you have to.

" 変革せよ。変革を迫られる前に。" (Jack Welch)

自ら変革をしていくのと、変革せざるを得なくなったのでは大きく意味が違ってきます。我々はクリエイター集団。もっと前向きに、少しでも前に、そしてさらに前へと進んでいくのが天命なのではないでしょうか。私個人としては、今の境遇に満足して勢いを無くすことなく常に前を向き、積極的にいろいろな活動をしていこうと思っています。市民活動センターでの写真教室はその一つ。毎回すぐに定員いっぱいになるほどの人気教室になりました。さらにもう一つやろうと思っていることもあります。

このような活動をするなかで茨木美術協会の認知度を上げ、もっともっと活動の輪を広げていけたらと思っています。

● 大下 佳子 (日本画)

今回初めて会員にして頂きました私には、美術協会の改革について考えを述べる事は、むづかしいです。これから会員の方々とお会いする機会もでき、お話できるとと思っています。ですので、この年齢まで日本画を続けていることを書きます。彫刻家だった父が、木の香りがするアトリエで背中を丸くしながらもくもくと彫っている姿を見て育ち、子供の頃から絵を描くことは好きでした。子育てが終わり、自分なりの楽しみをと始めたのが日本画です。20 数年になりますが、思いを表現するむづかしさを感じながらも、やっと描くことが楽しくなってきました。市展での講評が嬉しく励みとなり、これからも頑張っていきたいです。

● 森島 輝雄 (写真)

「運河彷徨」

大阪市都島区の毛馬水門より取水した淀川の水は桜宮で大川となり、やがてふたつに分流した流れは中之島の左岸を土佐川右岸を堂島川となり大阪北区の中心部を西へと流れる。

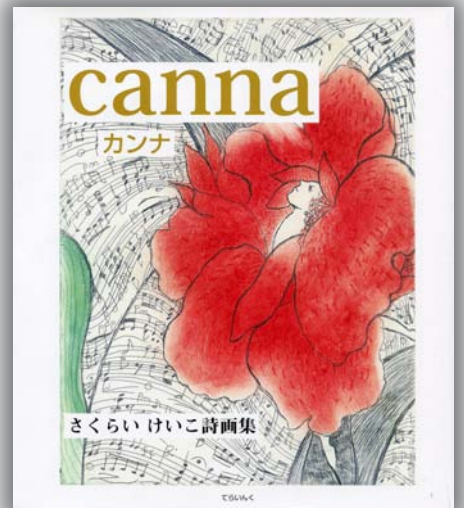
西区川口で再び合流した流れは船津橋端蔵橋の下をくぐり、木津川安治川となり天保山運河を経て大阪湾に至る。1987 年頃には安治川左岸の工場街から築港のレンガ倉庫群あたりまで貨物引込み線の赤錆た鉄路があり、三十間堀川には朽ちた木造船が沢山捨てられていた。昔は水運で栄えたであろうその面影は今はなく、陸送の発達と共に高架道路の帯がのび、その影が川面を暗くしている。



● 桜井 恵子 (彫刻)

私は昨年会員になったばかりですので協会についての改革という潮の流れについては残念ですが意見を言える程の考えがなくて申し訳ございません。今回は私ごとを書かせていただきます。会員になると同時期に私は本を出版いたしました。「canna・カンナ」さくらいけいこ詩画集です。中には市の美術展に出品した版画作品が何点かあります。

茨木市の各図書館にはすでに置いてありますのでご覧になって下さい。もちろん本屋でも手に入ります。感想をお聞かせただけなら、うれしいです。私は彫刻部で会員になっていますので、次回は彫刻で詩を表現したいと思っています。



●岡 貞徳 (洋画)

「30年の計」私は生きていない。

自然社会変革の中で真実も解体され因習、歴史の縛りからも離脱、見慣れた物に感激も湧かなくなった時代でも伝統を守るには世の流れを加味せねば干からびて終うらしい。

人間は創造力に長けているのでサプライズに対しても区別のない方向性、発想も豊かになり、ちゃんとした精神的利益を広めて行けると思う。

本来人間、見たくないものを観たがるので「茨木」から発信する暴れるべき時期にきたような気がする。

今後の若者にどんな意欲と希望を与えられるのか、乱れてけっこ、アートはそこにある。ボランティアだけで終わらすのは僣越ながら、勿体無いとつくづく思う。

芸術の「芸」は草の下でものを云うと書く。

雑草の花は何時差咲くのか誰も知らない。蝶や鳥でなくこっそり蟻が花粉を運ぶらしい。何十年も先に咲く花はじっと地面の下で待っている。「芸」とはそんな宿命を背負っている。

表現者は死を恐れることなくもっとアバレルべきだと思う。

常に挑戦者!そしたら必ず若者が集まってくる。



渡り雪

●大島 修 (写真)

今、私の所属している JNP 風景写真協会では写真を通して何か社会に貢献出来ないかと取り組んでいます。私のラジオ体操で知り合った油絵が趣味の T さんが府下に 35 棟の有料養護老人ホームの施設管理を任されているのですが、ほとんど一日中ホームの中で過ごす高齢者の方々に、少しでも安らぎを与える事が出来れば幸いと思い、昨年その一つに私のクリエイティブギャラリーでの 2 回の風景写真個展の中から秋の写真 5 枚選んでもらって、全紙額でホームに寄贈し飾ってもらいました。

後日、ホームに様子伺いに行ってみると車いすの方が廊下で写真を見て綺麗景色ですねーと言葉に出して言ったのを眼にして少しはお役にたってるのを確信して帰りました。

今年もすでに入れ替え用に春の写真 5 枚を寄贈しました。

今年は箕面にもう 1 棟新築予定で、そこには初めから飾るスペースを作るそうで T さんの油絵と私の写真も飾ってもらえる予定で T さんは 100 号の大作に今、筆をふるっています。

将来的には 35,6 棟すべてをローテーションして飾れたらいいなと T さんと将来の夢を話してるこの頃です。

●山口 加都代 (洋画)

世界文化遺産を毎年幾つも見えています。ラフスケッチは多くしていますが制作する時間をまだ作っていません。昨年 7 月と 8 月に曾孫が産まれて、とても可愛い子なので毎日この子達の事を考え服やおもちゃを買って与えています。今はその子等を描いています。しばらくはこれが続くと思います。男の児なので何年までモデルになってくれるかと考えます。

名ピアニストの CD を聴きながらベビーに接していると幸せです。神戸動物王国では生き生きとした動物に触れることが出来ますのでベビーにもこやかに喜んでいました。この動物と子の心の触れ合いを描き、世界遺産も心からとり入れて描いて行くつもりです。

●浅生 稔 (写真)

EOS5Ds を使い始めて 10 ヶ月で撮影枚数は 2 万枚を超えた。年間撮影日 120 日。カメラのシャッター耐用枚数は 10 万枚。4 年で到達する、その頃は新製品も出て来るから丁度良い。

昨年は立山での撮影合計 15 日間。雷鳥沢まで一日で朝夕 2 往復の撮影に出かけ、帰りは 850 段の石段を登って山小屋迄帰る事もあった。今年も昨年同様に 7 月、8 月、9 月に 4 泊 5 日、3 回の予約済み。他に上高地など、毎月山登りで日焼け、年中真っ黒け。家に帰れば朝から夜までパソコンで、テレビを見る暇がない。

●磯部 隆 (洋画)

学生時代に美術活動をしていたものの、その後 30 数年間封印。再び絵を描き始めたのは今から 5 年前です。教員退職がきっかけでした。絵の制作を再開すると同時に Face Book で作品公開を始めました。Face Book 友達が世界中に出来、海外の美術家との交流が制作の大きな刺激となっています。今春にはウクライナの友人が企画した展覧会の誘いを受け、作品を出品する機会がありました。国内の公募展への参加は 2013 年から始めましたが、茨木市美術展への参加もこの年からです。

茨木美術協会には昨年から会員になりました。近隣の美術家との交流が広がることを期待しています。

9 月に大阪市内で個展をします。

●戸崎 智津子 (洋画)

昨年の茨木市美術展、洋画部門にて「教育委員会賞」とともに会員へ推挙いただき、今年度より美術協会会員に加わりました。今から 8 年前ふとしたことから幼少期の習い事でありました絵画の「ひとり静かな時間」に思いを馳せ、現在の師の元、石膏デッサンから再スタート。気付けば、仕事家事子育ての中、茨木市美術展に向けての制作が何より「心の癒しの時間」となりました。会員になりましたことを機に今後は、コンクール等活動の場を拡げていく予定です。

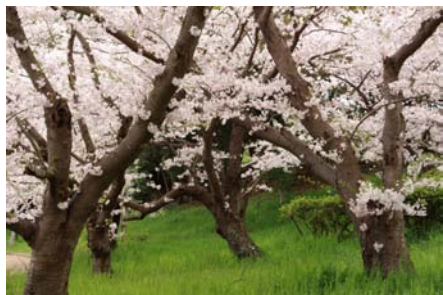
こちらでは、諸先輩方からのご指導をいただきながら、お役に立てますよう努めて参ります。

どうぞよろしく願いいたします。

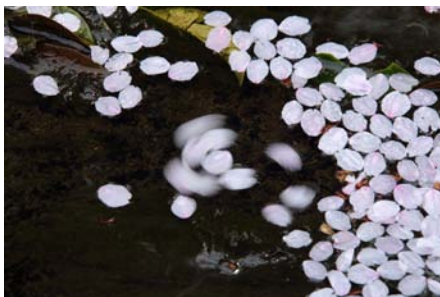
● 望月 文子 (写 真)

昨年、入会させていただきました。よろしくお願い致します。茨木美術協会の改革の最中に入会で、早々に茨木市立ギャラリーでの会員展に出展させていただいた事、感謝いたします。

入会当時不安な面持ちで、茨木美術協会についてパソコンで検索してHPを見つけ、ほっとした事を思い出しました。徐々に充実した内容になり、ご努力の成果と嬉しく拝見しています。今年は桜の開花が早く、雨の翌日4月8日は近くの桜はほとんど散ってしまいました。明石城公園は遅いとの情報を得て初めて行きました。写真を続けていると友人が増え、楽しく公園を散策してきました。体が元気な間は写真を楽しみたいと思っています。



花園



渦



ラブコール

● 高木 雄一郎 (工芸美術)

「信楽焼に魅せられて」

企業人を卒業して、陶芸の世界へ自然と導かれ1年ほど経過した頃、信楽焼に誘われ、六古窯の中でも好きな焼き物でしたが、自分で焼いてみて楽しみと苦しみの狭間に何時も挟まれ10年余り過ぎて来ました。

穴窯焼の魅力に憑りつかれ、釉薬にない自然美を追い求め、諸先生方に教えを請い、行きつく先の見えない道を歩いています。歩留まりの悪い自然との戦い、再現性の少ないこの焼き物を、それでもその神秘性を追い求めて、土と炎と気候と横を流れる川の水量と、そして薪のくべ方と窯内温度、気が遠くなりますが友との情を大切に焼続けています。 友と健康に感謝。

● 柳田 憲一 (彫 刻)

「どこに向かっていいのか解りませんが制作はボチボチ続けております。」

写真はレリーフの様なもの「?」です。



● 増田 力也 (洋 画)

今年も京都のアートスペース東山にて恒例の個展を開催させていただきました。会場には昨年以上に海外の方が見えられる機会が多かったように感じました。

生憎、私は英会話が不得手なため、最低限の応対すらできず大変残念に思いました。今後、海外の方に作品を見ていただく機会は益々増えていくかと思っています。

日本人の、日本人による、日本人のための作品づくり、という従来の姿勢を守りながらも世界に向けて作品を発表しているのだ、という気持ちをより強く持ち、小さな展覧会であっても、作品のコンセプト、技術、価格といった最低限の内容は言葉でもお伝えできるようにしておきたい、ということ学ぶ機会となりました。



● 大倉いづみ (洋画)

個人的な事情でなかなか絵筆をとれず、茨木美術展も出品出来なくて、会員展も出たかったのですがまた見に行かせて頂きたいと思っています。皆さんはお変わりなく制作に励んでおられることと思います。最近は半具象を描きたいと思っています。やはり個人的にはノスタルジーとエモーションのぶつかり合いが描きたいのです。いつか皆さんとご一緒出来ることを祈っています。添付は去年の小品です。



● 長澤 裕子 (書)

去年、還暦を迎え、記念に個展をさせていただきました。40年あまりの書道活動をふり返り、一段落。今年から新たな気持ちで書に向き合いたいと思っています。年を重ねることで、自分の書がどう変わっていくのか、楽しみです。

● 横山 恵美子 (洋画)

「プラタナスの会」懐かしい響きです。今は亡き、塩崎敬子先生のアトリエでの教室でした。5~7名位のメンバーで、先生の温かく、厳しいご指導の中、グループ展、市展へ皆で出品していました。今もまだ、絵を続けている私は、いつも先生のことを思っています。アトリエの仲間は今も大切に支え励まし宝物になっています。

私も今年70才になりますが、これからも、もっと時間を大切にキャンパスに向いあいたいと思います。

塩崎アトリエで学んでいた全ての事を大切にしてい。

感謝

● 北井 勲 (デザイン)

「開発という名の破壊」

口を開けば「開発」「開発」という言葉が盛んに飛び交う昨今ですが、開発を手がける人々や会社に本来の開発の理念や、コンセプトが明確な意識となって、その仕事に携わっているのかと言うと、残念ながら疑問を持っているのが実情です。

- ・ 本当に人の役立つ開発なのか？
- ・ 自然に向き合った開発なのか？
- ・ 歴史、文化を活かした開発なのか？

このバランスを如何に取ったものになり、未来に胸を張ってと言えるものになっているのか、考え込んでしまう毎日なのです。

日本全国均質化の社会がどんどん加速して地域固有の歴史や文化や暮らしが消えて行く社会になっているような気がしてなりません。経済優先の様々な行為はバランスを壊し、数多くの破壊行為を引き起こしているのでは無いかと思うのです。

気候の変動も環境の変動もすべてがこの破壊行為(人間のエゴイズム)ではと思わずにはおられません。自己中心的活動では有益な、未来へつなぐものでは無く破壊への道を進む道を突き進むことになるのです。

翻って美術協会会員の創造活動の在り方も自分本位ではこの考えと同じ道を歩むことになりかねません。誰のための創造か? 何のための創造か? を良く考える時だと思えます。

「自然 × 人 = 美」はそのための一つの考えではと思っています。とりわけ「人」の在り方は単に己の事だけでは無く、歴史、文化、暮らしなど人間の生き様が投影されなければなりません。それらが組み合わされて始めてバランスのとれた「美」のある環境や社会が成立するのではと考えています。デザインの原点にこの考えを反映させ、活動しなければならないと…。デザインを通じて考える仕事の在り方「なんのための仕事」を考えなければと思う。時あたかも、この原稿を書いている最中にとんでもないニュースが飛び込んで来ました。月ヶ瀬の茶畑のど真ん中で許可期限を超えて、しかも無許可で掘削され現場は切り立った土の崖が露出する危険な状態になった。掘削する側の責任も重大ではあるが県の指導のありかたも重大では無いかと…。開発という名の破壊の典型的な事例ではないだろうか?

許されざるべき行為だろう。身勝手な行為は自然界のバランスを崩し、破壊の道を歩むことに繋がる。歴史に学び、未来をデザインすることは、総ての分野に共通の大きな課題だと言えるのです。

このフォーラムは、そんなことを考えるきっかけになることを願っています。



何時も多くの皆さまにご来場いただきありがとうございます。  
作品の大きさを10号程度として、2回目の展覧会となりますが、色調の明るい作品が揃い、大きさも統一されているので良かったと、称賛の言葉をいただきました。

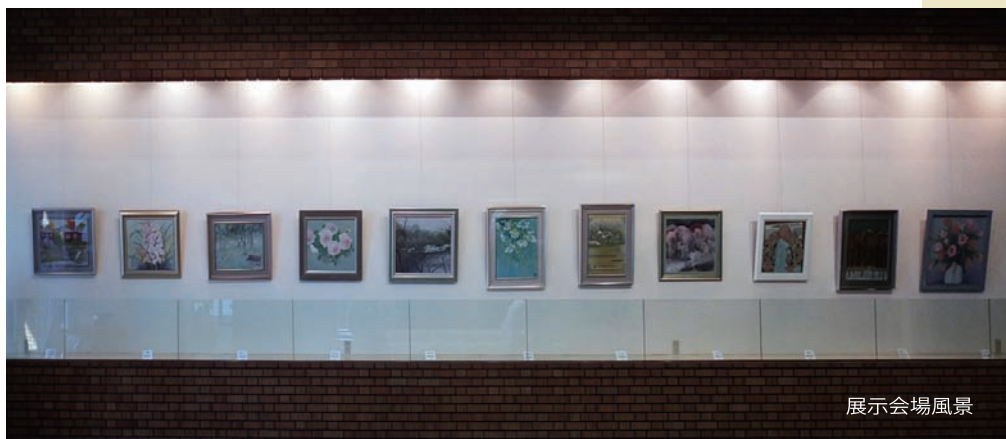
今後も、10号程度の作品を、展示したいと考えていますので、新入会の会員の方も奮って出品をお願いします。

今回の開催は2017年3月7日～4月3日です。  
今回出品されていない方の中から、改めて出品の依頼をさせていただきますので、ご協力をお願いします。

日本画部仲間展係 田中 章夫

茨木美術協会  
**日本画の仲間展**  
平成28年3月1日(火)～3月28日(月)  
午前9時～午後7時(最終日1時30分まで)  
茨木市福祉文化会館1F 市民ギャラリー  
(オークシアター1Fロビー)  
茨木市役所前 TEL.072-620-1810

池田靖子  
上村喜久  
小野俊子  
九鬼広子  
鈴木篤子  
高間秀子  
田中章夫  
西田照子  
西出田鶴子  
野瀬佳子  
松林稔子



展示会場風景



「ファンタジー」池田 靖子



「初夏の頃」上村 喜久



「憩う」小野 俊子



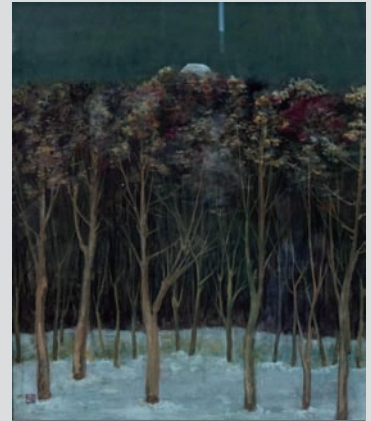
# 日本画の仲間展



「咲く」西出 田鶴子



「捧ぐ」鈴木 篤子



「初冬」西田 照子



「秋景」高間 秀子



「山里」松林 稔子



「華」九鬼 広子



「川沿いの家」田中 章夫



「残雪」野瀬 佳子

写真撮影：デザイン部 / 北井 勲

## こんなとき……

リフォームしてみませんか！

たとえば  
今 持っている  
ダイヤの立爪の指環を  
お気に入りのデザインの  
指環やペンダントにしたいと思ったら……

職人の手作りです。  
完成品もございます。  
皆様のご連絡をお待ちしています。

### 予約制

ご来店の際は必ず、お電話で  
日時を、ご予約下さい。

電話：080-5300-9887  
担当：小寄（おざき）

### VINGH ET UN

ヴァンテ アン  
大阪市浪速区難波中 1-18-5 滝沢宝飾内

茨木美術協会研究会  
**茨木の歴史をめぐる  
 見学会・展覧会  
 参加者募集**

① **茨木の歴史  
 見学会**  
 平成28年6月12日(日)  
 現代に残る茨木の史跡に触れ、歴史的遺物からインスピレーションを得るミニツアーです。  
 見学予定地  
 高雲寺(キリシタン墓所)・キリシタン遺物資料館・安威川ダム・新屋坐天照御魂神社 など  
 申込期限:平成28年5月31日まで

② **茨木の歴史  
 作品展**  
 平成28年11月22日(火)~12月19日(月)  
 「茨木の歴史」をテーマに、特にとらわれない自由な表現方法で作品を制作し、展示します。  
 申込期限:平成28年6月15日まで

参加ご希望の方は林幸久(彫刻)までお知らせください。  
 〒567-0012 大阪府茨木市東太田1-3-828  
 TEL: 090-8480-7370 E-mail: tetuwan114@softbank.jp

今年の研究会の活動は「茨木の歴史」をテーマとして作品展を福祉文化会館 1F 市民ギャラリーにて、11月22日(火)~12月19日(月)の期間、開催する予定です。

私たち美術協会は茨木市を活動の拠点としていますので茨木の歴史を勉強し作品を通して外に向かってメッセージを発信したいと思っています。

展覧会に先立ちまして茨木の歴史を探る見学会を、6月12日(日)に開催して、作品のインスピレーションを感じようと思います。

歴史的遺物だけでなく、安威川ダムや名神高速道路の工事を合わせて見学します。茨木市は少し山に入ると昔ながらの山村風景 段々畑が見られ、とても良い所ですが近年急速に変化しています。建物や遺物、資料だけを残すのではなく風景を山間の空気感を残してもらいたいと思うのは私だけでしょうか。長い間変わらずあった風景が一瞬に変貌していくことは耐えがたい喪失感です。茨木の山間自体が文化遺産だと思っています。日々の個人の制作とは違った表現を研究会という場でチャレンジ出来たら良いのです。専門部門以外の表現方法でも構わないんです。研究会なのですから。自由です。大きさも小ささも無制限です。皆んなで刺激的な展覧会にして楽しみたいと思います。

研究会委員長 林 幸久

■ガイド協力  
 茨木市観光協会  
 072-645-2020  
<http://www.ibaraki-kankou.or.jp/>



写真撮影：デザイン部 / 北井 勲

2016年6月12日(日)協会研究会企画「茨木の歴史見学会」に15名の参加があり5台の車に分乗して周りました。梅雨時で雨が心配されましたがなんとかもってくれました。茨木市観光協会のご協力により2名のガイドさんにも同行していただきました。

いつもはハイキングコースで引率されているのですが車での移動にも対応していただき、コースも考えてもらって本当にお世話になりました。とても分かりやすい解説で勉強になりました。まず始めにキリシタン遺物資料館にてビデオを40分ほど見せてもらいました。キリシタン大名の高山右近の追放後も厳しい弾圧を逃れて信仰が続けられ、茨木のこんなに近くにある千提寺や下音羽の歴史が世界からも注目されているということが驚きでした。本当に平和でどかな段々畑のある日本の原風景そのものなのに…

そんな茨木の山間が大きく削られた新名神高速道路の工事現場や安威川ダムの工事現場も見えてまいりました。何もかも無くして新たに造るという感じでした。茨木市はそれぞれの時代にとっても重要な場所であり色々な歴史があり大変興味深く思いました。

歴史を想い作品を創ることで少し掘り下げて考えてみたいと思います。 研究会委員長 林 幸久

茨木美術協会の名刺を制作いたします！

デザイン部門 専任部長  
 副専任部長・ピンポイント制作

茨木美術協会  
 〒567-0888 茨木市駅前4-6-14 茨木市市民活動センター内

現在の茨木美術協会のホームページのトップです。

**茨木美術**

■ホームページを開発していますので是非アクセスしてみてください！  
 アドバイスも下さい！

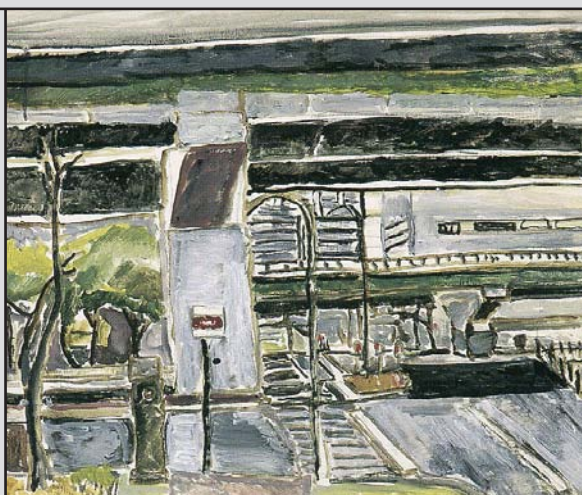
■名刺制作を受け付けています。  
 お気軽にお申し付け下さい。  
 100枚 ¥1,000 です。  
 詳細は広報部、梶原(デザイン部)  
 090-8539-7356 迄ご連絡下さい。

[ibaraki-art.org/](http://ibaraki-art.org/)

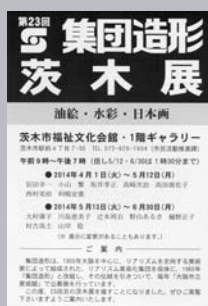
茨木美術協会 検索

# 謹んでご冥福をお祈り申し上げます

美術協会会員  
洋画部  
故 辻本 周右氏  
2016年1月8日 逝去



「高架下風景」  
茨木美術  
2010年60周年記念誌より



「線路」F10  
線路の面白さを表現しました。  
2014年茨木美術 no53 十人十色より

グループ展を拝見させていただく機会があり、会場での作品の中に闘病中の辻本さんの計り知れない創作への思いを見させて戴いたような気がしています。常にグループの一員として、リーダーとして活動されていた事に創作の芯を見る思いをしていました。

デザイン：北井 勲

去る1月8日、洋画部で永らく活躍された辻本周右さんがご逝去されました。故人のご冥福を心よりお祈りいたします。

辻本さんは茨木美術協会の中核作家として早くから活躍、1963年に市長賞、翌年無鑑査となり美術協会会員、1944年から2002年までの間、市美術展の審査員を8回努められ、市美術展、会員展、小品展、企画展等協会各展覧会に欠かさず出展、理事として協会の発展に尽力されました。

お人柄は誠実で実直、朴訥としたおしゃべり、にこやかな笑顔、嘘偽りのないご性格は周囲に信頼され、ジャスコで開いた小品展の時も、会場が遅くまで額に汗し展示作業をされていたお姿が今でも私の胸に深く刻まれています。

若いころから絵を描きながら、本業は教員として63歳まで勤められ、教師としても生徒達にさぞかし慕われた先生だったのだろうと推察いたします。

しかし、作品は荒々しく、力強い。強いマチエールを出すため、あえてキャンバスの裏を使い、力強い輪郭線と掠れたような塗肌を用い、なんでもない日常を生き生きと表現した作風は、まさに辻本芸術の真骨頂と言えます。

また 辻本さんは平和主義者でもありました。関西平和美術展でもご活躍され、私の所属団体と会期が重なった時、天王寺美術館で時折お会いしたことが有ります。

奥さまのお話では、10年ほど前からパーキンソン病を患い、徐々に身体能力が低下、最後は寝たきりとなっていたようです。今になって思えば、ご本人から『体調が思わしくなく、皆さんに迷惑をかけるので理事と審査員を降りたい』とお話があったのがその頃のように思います。しかし、『僕から絵を取ったら何も残らない』と絵に対する情熱は晩年も衰えることが無く、亡くなられる前月までお嬢様のサポートを受けながら、ベットの上で絵筆を握られていたとの事です。

御年79歳、まだまだ頑張っていたくださった先輩作家の訃報に接し、拙い文章で追悼文を記します。

辻本周右さん、長い間ありがとうございました。心安らかにお休みください。

茨木美術協会副会長 藤川耕太郎

## ■2016 茨木市美術企画展のお知らせ

- ◆会期：前期 6月23日(木)～6月28日(火)  
午前10時～午後7時  
**日本画・書**
- 中期 6月30日(木)～7月5日(火)  
**洋画・版画・デザイン・彫刻**  
午前10時～午後7時
- 後期 7月7日(木)～7月12日(火)  
午前10時～午後7時  
**写真・工芸美術**

◆会場：茨木市立ギャラリー  
阪急茨木市駅ロサヴィア2F  
会期中は無休、何れも最終日は午後5時までです。

※本企画展に出品された作品の中から平成29年2月2日～7日に開催される茨木市主催「茨木市立ギャラリー企画展36」に出品する作品が選抜されます。主品依頼は茨木市から協力要請後、企画展委員会から出品許諾はがき等と共に選抜された会員に郵送されます。

茨木市美術企画展 委員長 西田 照子

## ■第67回茨木市美術展開催のお知らせ

会期：平成28年10月7日(金)～10月16日(日)  
会場：茨木市役所南館1・8・9・10階  
主催：茨木市美術展実行委員会(茨木市・茨木市美術協会)  
茨木市教育委員会  
後援：茨木市観光協会  
入賞作品展：茨木市立ギャラリー(阪急茨木市駅ロサヴィア2F)  
平成28年10月20日(木)～25日(火)

## ■編集後記

57号より大幅に誌面を刷新しました。  
どのような広報誌にしたら皆さんの心に響くのだろうかと思案錯誤の毎日です。

編集と制作をやりながら皆さんから寄せていただいた原稿を見させて戴きながら考えています。

従来の委員会活動の枠組みでは身内の活動に終始して大きな変革や外部に対してのインパクトが中々得られないのではと危惧しています。新たな枠組みの中から次代へ発信する大きな波動が生まれるのではないのでしょうか？

美術協会が核になって市の教育委員会や、文化振興課や市の観光協会も巻き込みながら新たなプロジェクトで取組むことが待望されているのでは無いのでしょうか？

私はこのような取組(部門を越えた新たな繋がり)の中で、推進して行く事で新たな市民目線の展開が生まれてくると考えます。

それこそが美術協会を活性化させ Heart Art Project の取組姿勢になるものと思います。

広報部 部長 北井 勲

### 表紙の言葉・「ターミナル」

通いなれた駅周辺で、ある夕暮れ時、見上げた空に二度と見れないような雲に出会えた。慌てて広角レンズに切り替え、構図の主体を雲か風景かの判断に戸惑ったが…手前から奥行きのある広がりを感じ、一呼吸おいてシャッターをきった。

写真・井出 貢

- 平成27年度 茨木市美術展  
美術協会会長賞受賞作品・写真部門

## ■会員の異動

会員の異動、住所変更などは、総務部長 鳥居 史郎宛(090-8989-9294)にお願いします。

- ◆入会(2016年4月新入会員)
  - (日本画) 大下 佳子 (茨木市下穂積)
  - (日本画) 大西末佐子 (高槻市宮田町)
  - (日本画) 大前 愛子 (京都市北区大宮玄塚南町)
  - (洋画) 戸崎智津子 (高槻市南平台)
  - (洋画) 福内 春樹 (高槻市西之川原)
  - (洋画) 吉中 和美 (高槻市大和)
  - (工芸美術) 服部 ふさ (茨木市園田町)
  - (工芸美術) 山本佐代子 (茨木市総持寺)
  - (書) 高田 蘭香 (茨木市西駅前町)
  - (写真) 小堀 裕司 (高槻市安岡寺町)
  - (写真) 高橋 一秀 (高槻市富田丘町)
  - (写真) 内藤 和子 (吹田市檉切山)
  - (写真) 堀林美智子 (茨木市美沢町)
  - (デザイン) 宮田なつ子 (宝塚市山本南)

- ◆会員推挙(2016年2月)
  - (工芸美術) 米田 瞳 (泉南郡熊取町新野田)
  - (工芸美術) 中村 信彦 (茨木市豊川)

- ◆退会
  - (洋画) 辻本 周右 (吹田市江坂町)・2016年1月逝去
  - (洋画) 宮崎 万平 (茨木市舟木町)・2016年5月逝去
  - (デザイン) 松下 常祐 (茨木市北春日丘)・2016.1.退会
  - (デザイン) 宮崎 敬司 (茨木市新郡山)・2016.2.退会
  - (写真) 越水 勇 (茨木市下中条町)・2016.5.退会
  - (書) 堤 高子 (茨木市白川)・2016.6.退会
  - (デザイン) 末次真佐子 (茨木市西中条町)・2016.6.退会

### ◆逝去

(洋画) 辻本 周右 (吹田市江坂町)  
2016年1月8日逝去されました。

(洋画) 宮崎 万平 (茨木市舟木町)  
2016年5月29日逝去されました。  
お二人のご冥福を謹んでお祈り申し上げます。

※関連記事をP19に掲載しています。(宮崎 万平氏は次号に掲載します)

## ■茨木美術協会会員

(平成27年6月6日現在)

日本画	36	工芸美術	37
洋画	48	書	30
版画	13	写真	47
彫刻	8	デザイン	17
			合計 236名

- 会費納入は郵便振替口座で(年 ¥5,000)  
No.00900-9-49388 茨木美術協会へ  
会則により、会費を二年間滞納の場合、退会扱いとなりますので承願います。

広報部：松葉 蘇山(顧問)・北井 勲(部長)

梶原 雅彦(HP委員長)

杉野 立一(広報誌委員長)・稲垣 直樹・上田 勉・上西 守・藤田 昌宏

茨木美術協会 検索 [ibaraki-art.org/](http://ibaraki-art.org/)

茨木美術協会広報 Art Wave now No.57・平成28年6月31日発行  
編集・茨木美術協会広報部/印刷・株式会社西川印刷所

事務局：鳥居 史郎・中濱 正善

会員は一部無償配布

頒布価格 ¥500